インストール後のタスク

- （1 GbE のみ）インストール後のスクリプトの実行 （1 ページ）
- （10 GbE のみ）インストール後のスクリプトの実行 （2 ページ）
- vMotion の設定 （3 ページ）

（1 GbE のみ）インストール後のスクリプトの実行

ステップ 1 Web ブラウザで `http://<installer VM IP address>/mssh` に移動し、ユーザ名 **root** とパスワードでログインして、`~#post_install.py` を実行します。

ステップ 2 **Enter** を押して、Web ベースの SSH ウィンドウでインストール後のタスクを開始します。

インストール後のスクリプトの実行時に、次のオプションが表示されます。

```
Select post_install workflow-

1. New/Existing Cluster
2. Expanded Cluster
3. Generate Certificate

Note:  Workflow No.3 is mandatory to have unique SSL certificate in the cluster.
        By Generating this certificate, it will replace your current certificate.
        If you're performing cluster expansion, then this option is not required.
```

要件ごとに次のいずれかのオプションを選択します。

- **1**: 新しく作成されたクラスタまたは既存のクラスタでインストール後スクリプトを実行します。このオプションを選択すると、スクリプトはクラスタ内のすべてのノードでインストール後の操作を実行します。
- **2**: 拡張ワークフローを実行した後、拡張ノードまたは新しく追加されたノードでインストール後スクリプトを実行します。このオプションを選択すると、スクリプトは拡張されたノードのリストを取得し、拡張されたノードでインストール後の操作を実行します。
- **3**: クラスタ内に固有の SSL 証明書を設定します。このオプションを選択すると、現在の証明書が新しく作成された SSL 証明書に置換されます。このオプションは、クラスタの拡張には必要ありません。

ステップ 3 画面の指示に従って、インストールを完了します。

`post_install` スクリプトによって以下の操作が実行されます。

- vCenter ホストへのライセンス付与。
- ベスト プラクティスに基づくクラスタの HA/DRS の有効化。
- vCenter での SSH/シェル警告の抑制。
- ベスト プラクティスに沿った VMotion の設定。
- ゲスト VLAN/ポートグループの追加。
- HyperFlex Edge 設定のチェックの実行。

Post_install ワークフローが正常に完了すると、選択したオプションに基づいて実行された設定の概要が **[Cluster summary (クラスタ概要)]** の下に表示されます。

（10 GbE のみ）インストール後のスクリプトの実行

ステップ 1 Web ブラウザで `http://<installer VM IP address>/mssh` に移動し、ユーザ名 **root** とパスワードでログインして、`~#post_install` を実行します。

ステップ 2 **Enter** を押して、Web ベースの SSH ウィンドウでインストール後のタスクを開始します。

インストール後のスクリプトの実行時に、次のオプションが表示されます。

```
Select post_install workflow-

1. New/Existing Cluster
2. Expanded Cluster
3. Generate Certificate

Note:  Workflow No.3 is mandatory to have unique SSL certificate in the cluster.
        By Generating this certificate, it will replace your current certificate.
        If you're performing cluster expansion, then this option is not required.
```

要件ごとに次のいずれかのオプションを選択します。

- **1**: 新しく作成されたクラスタまたは既存のクラスタでインストール後スクリプトを実行します。このオプションを選択すると、スクリプトはクラスタ内のすべてのノードでインストール後の操作を実行します。
- **2**: 拡張ワークフローを実行した後、拡張ノードまたは新しく追加されたノードでインストール後スクリプトを実行します。このオプションを選択すると、スクリプトは拡張されたノードのリストを取得し、拡張されたノードでインストール後の操作を実行します。
- **3**: クラスタ内に固有の SSL 証明書を設定します。このオプションを選択すると、現在の証明書が新しく作成された SSL 証明書に置換されます。このオプションは、クラスタの拡張には必要ありません。

ステップ 3 画面の指示に従って、インストールを完了します。

`post_install` スクリプトによって以下の操作が実行されます。

- vCenter ホストへのライセンス付与。
- ベスト プラクティスに基づくクラスタの HA/DRS の有効化。
- vCenter での SSH/シェル警告の削除。
- ベスト プラクティスに沿った VMotion の設定。
- 新しい VM ポートグループの追加。
- HyperFlex Edge ヘルス チェックを実行します。

Post_install ワークフローが正常に完了すると、選択したオプションに基づいて実行された設定の概要が **[Cluster summary (クラスタ概要)]** の下に表示されます。

vMotion の設定

vMotion の自動設定

`post_install` スクリプトにより、ネットワーク トポロジに基づいて VMotion が自動的に設定されます。

1GE シングル スイッチの考慮事項

- 自動設定でサポートされるのは、トランク ポート、および専用 VMotion VLAN を使用する設定のみです。
- アクセス ポートまたは共有 VMotion VLAN を使用する場合は、既存の管理 VMKernel ポート（vmk0）で VMotion を手動で設定する必要があります。
- VMotion は、1GE 管理および VM ネットワーク アップリンクで共有されます。
- VMotion によってリンクが完全な飽和状態にならないように、デフォルトの 500 Mbps トラフィック シェーパーで新しい VMKernel ポート（vmk2）が作成されます。このデフォルト値は、`post_install` の実行後に変更できます。トラフィック シェーピングの手動設定（4 ページ）を参照してください。

1GE デュアル スイッチの考慮事項

- VMotion は専用の 1GE アップリンクで設定されます。
- 新しい VMKernel ポート（vmk2）が作成されます。通常のネットワーク状態でストレージ データと VMotion が分離されるように、フェールオーバー順序が自動設定されます。
- この設定では、トラフィック シェーパーは不要です。

10GE スイッチの考慮事項

- VMotionvMotion は、専用の vMotion vSwitch 上で専用のアクティブ/スタンバイ vNIC と共に設定されています。
- 新しい VMKernel ポート（vmk2）が作成されます。通常のネットワーク状態でストレージデータと VMotion が分離されるように、フェールオーバー順序が自動設定されます。
- この設定ではトラフィック シェーパーは必要ありませんが、帯域幅は管理、VMotion、およびゲスト VM ポート グループで共有されます。ネットワーク要件に応じて、オプションのトラフィック シェーパーを適用することができます。

vMotion の手動設定

VMotion は、環境のニーズに合わせてさまざまな方法で設定できます。このタスクでは可能な設定を 1 つ取り上げますが、この手順ではそれ以外の設定も予期されるとともに許可されます。

この設定では、ポート 1 でトランキングされる固有の VLAN を VMotion に使用します。

ステップ 1 **vSphere Web Client** を起動して、管理者として vCenter Server にログインします。

ステップ 2 [vCenter Inventory Lists] で HyperFlex ホストをクリックして、**[Manage** > **Networking]** > **[Virtual Switches]** に移動します。

ステップ 3 [Add Host Networking] をクリックします。

ステップ 4 [Add Network Wizard: Connection Type] ページで、[VMkernel]、[Next] の順にクリックします。

ステップ 5 [Use vswitch-hx-inband-mgmt] をクリックして [Next] をクリックします。

ステップ 6 固有の [Network Label]（**vMotion** など）を入力して、正しい [VLAN ID] を入力し、[Use this port group for vMotion] をオンにして [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Use the following IP settings] をクリックしてスタティック IPv4 アドレスと [Subnet Mask] を入力し、[Next] をクリックします。

ステップ 8 設定を確認して [Finish] をクリックします。

ステップ 9 すべての HyperFlex ホストと、HyperFlex ストレージクラスタ内のコンピューティング専用ホストに対してこの手順を繰り返します。

トラフィック シェーピングの手動設定

共有アップリンクでのネットワークの輻輳を防ぐためのベストプラクティスは、VMotion インターフェイスでトラフィック シェーピングを有効にすることです。トラフィック シェーパーを設定しないと、VMotion トラフィックによって、同じ物理 1 GE ポートを共有する管理トラフィックと VM ゲスト トラフィックが、このポートを使用できなくなります。VMware vSphere 標準スイッチでは、出力トラフィックのシェーピングのみを設定できます。

ステップ 1 **vSphere Web Client** を起動して、管理者として vCenter Server にログインします。

ステップ 2 [vCenter Inventory Lists] で HyperFlex ホストをクリックして、**[Manage** > **Networking]** > **[Virtual Switches]** に移動します。

ステップ 3 VMotion ポートグループが含まれる vSwitch を選択します。

ステップ 4 VMotion ポートグループ名をクリックして、[Edit Settings]（鉛筆アイコン）をクリックします。

ステップ 5 左側のメニューで [Traffic shaping] を選択します。

ステップ 6 オーバーライド ボックスをオンにし、トラフィック シェーパーを有効にします。

ステップ 7 平均帯域幅とピーク帯域幅を、環境のニーズに対応した値に設定します。たとえば、1 GE アップリンクで使用可能な総帯域幅の 50% を表す 500,000 kbit/sec を両方の帯域幅に使用できます。

ステップ 8 [OK] を選択して設定内容を保存します。

（注） 平均帯域幅を希望の設定値に設定するときには注意してください。ピーク帯域幅はバースト トラフィックにのみ機能し、VMotion の動作に対してはすぐに不足します。